

# 関西の林木育種

関西林木育種懇話会

## 最近、気になった“和紙”のニュース

【関西林木育種懇話会顧問】

関西育種場長 米丸正則

### <手漉和紙、無形文化遺産に登録>

昨年11月に「和紙：日本の手漉和紙技術」がユネスコの無形文化遺産に登録されたとのニュースが流れました。登録に合わせて発表された文部科学大臣の談話では、「・・・今回の登録は、日本のすばらしい伝統文化である「和紙」が世界的にも評価されたことを表すものであり、国内においても「和紙」の文化的価値が広く認識され・・・、日本文化の発展と地方創生につながることを期待します。」としています。

遺産登録と言えば、知床、富士山、屋久島、最近で言えば、富岡製糸場を思い浮かべますが、これらは世界遺産と言われ、遺跡、景観、自然など、顕著な普遍的価値を持つ地域または物件で、有形の不動産が対象となっています。

一方、無形文化遺産の分野には、口承による伝統及び表現、芸能、社会的慣習・儀式及び祭礼行事、自然及び万物に関する知識及び慣習、伝統工芸技術があります。一昨年、和食が登録されたのが無形文化遺産で、まだ記憶に新しいところです。

さて、今回、無形文化遺産に登録された和紙は、島根県の石州半紙、岐阜県の本美濃紙、埼玉県ほそかわしの細川紙です。3種類ともコウゾのみを原料とし、我が国特有の伝統な製法である「流し漉き」を用いたもので、いずれも国指定の重要無形文化財です。

### <岡山の和紙>

私が関西育種場に着任したのが昨年4月で、1年が経過します。育種場が所在する岡山県での勤務は初めてであり、この地域にどんな和紙があるのか、やはり気になるところです。

岡山県のHPによると、郷土伝統的工芸品の県指定を受けた和紙として、備中和紙と津山箔合紙ほくあいが紹介されており、次のような特徴があります。

備中和紙は、1200年の歴史を誇る手漉き和紙です。備中地方は良質のコウゾを多く産出し、平安時代には和紙の一大産地となりました。備中和紙は、丈夫で墨の乗りがよく、仮名書道用として最適です。この他、障子紙、帳簿、手紙など、いろいろな用途があります。

津山箔合紙の箔合紙とは、金箔などを保存するもので、1枚ずつはがしやすいうように金箔を挟むものです。金箔を傷や湿気から守り、紙に金箔が付着することなく、保存できる特徴を持っています。ミツマタを原料とする和紙で、京都や金沢の金箔工芸には欠かせない存在です。

## <和紙いろいろ>

和紙には、原料、製法、用途によって様々な種類があります。全国手すき和紙連合会が平成4年に出版した「平成の紙譜」には、日本全国の手すき和紙 350 種類が収められています。この出版物に対しては、皇后陛下も注目されたことがあり、平成5年のお誕生日に際し、1年を振り返って印象深かったものの1つに上げておられます。

和紙の用途を列挙すると、書道用紙、水墨画などの画紙、奉書紙(高級な公文書用紙などに使用)、書状、巻物・掛軸・屏風などの表装、障子・襖などの建具、提灯などの照明、傘、扇子、包装紙、のし袋、折紙、懐紙など数多くあります。まさに、生活のあらゆる場面で使われてきたのが和紙であると言えます。

## <局納ミツマタ>

和紙の原料であるミツマタの用途として重要なものがあります。それは、紙幣すなわち日本銀行券です。まさしく生活に密着したもので、なくてはならないものです。

財務省広報誌ファイナンス(平成24年6月号)の「おれよもやま話」によると、明治4年に創設された印刷局では、偽造防止に効果的なお札用紙を製造すべく、製紙事業を開始しました。原料の第一候補はガンピでしたが、人工栽培が難しいため、次に白羽の矢が立ったのが、人工栽培が容易なミツマタです。ミツマタは、加工が容易で、緻密な図柄を鮮明に印刷でき、精巧なすかしを施しやすく、耐久性に優れているという特性を持ち、長きに渡ってお札用紙の原料として採用されてきたとのこと。

局納ミツマタとは、日本特用林産振興会のHPによると、日本銀行券の原料として印刷局に納めるミツマタ(白皮)のことで、島根、岡山、高知、徳島、愛媛、山口の局納生産県6県が印刷局と契約を結んで生産するものです。同HPによると、局納ミツマタの納入実績は昭和35年に1,250tだったものが平成14年には140tとなっており、激減しています。生産者の高齢化と後継者不足という構造的な問題を抱えており、将来的な生産基盤への不安は拭えない状況にあるとしています。

こうした状況の中で、関連する県や市町村ではミツマタの生産振興に取り組んでいます。例えば、平成26年5月10日に発行された徳島県三好市の議会だよりによると、ミツマタに関する一般質問に対し、ミツマタは耕作放棄地対策として有益であり、鳥獣の被害が少ない植物で景観作物でもあり、三好市の特産物であることなどから、今後においても関係機関と連携し、生産量の増や生産技術の向上に取り組む、と市当局が回答しています。

## <林木育種からミツマタにアプローチ>

さて、話は変わりますが、私たちが取り組んでいる事業の1つに林木ジーンバンク事業があります。この事業は、昭和60年に農林水産省ジーンバンク事業の林木遺伝資源部門としてスタートしました。事業開始から30年が経過したことから、新たな戦略を策定するための検討会を立ち上げて、検討を進めてきました。そして、新たな戦略が昨年12月に「林木ジーンバンク事業の方針」として公表されました。

今後は、この方針に基づいて事業を進めることとなりますが、ミツマタの生産量が減少する中、事業の対象樹種の1つとして、ミツマタの育種に取り組み、地域振興に貢献できないかと考えています。

## 初期成長の早いスギおよびヒノキ精英樹さし木クローン植栽 共同試験の状況について

関西育種場 磯田圭哉

平成 26 年度の関西林木育種懇話会総会（尾鷲市）で、「初期成長の早いスギおよびヒノキ精英樹さし木クローン植栽共同試験の状況について」と題して発表を行い、懇話会会員の皆様との共同で進めてきた植栽試験の報告を行いました。ここでは、その概要を紹介いたします。

平成 21 年度の懇話会総会で共同試験の提案を行って以来、5ヶ所の試験地を造成してきました。植栽したのは初期成長の早いスギの実生苗やさし木苗、スギ第 2 世代精英樹候補木のさし木苗、ヒノキ精英樹のさし木苗です（図 1）。

最初の試験地は住友林業の社有林で、平成 22 年 3 月に初期成長の早いスギのさし木苗を植栽しました。初期成長の早いスギは、複数の検定林における 5 年次および 10 年次の樹高によって、精英樹から選定されたものです。この試験地では植栽後の活着不良等が起り、2 年次くらいまでの成長が良くありませんでしたが、その後は順調に成長し、4 年次で 3m を超す個体も見られました。系統平均値（図 2）を見ると、初期成長の早いスギはいずれも、対照として植栽した三好 10 号（平均樹高 89 cm）を上回っており、相対的に良く成長していると考えられました。特に中村署 3 号は 216 cm、周桑 22 号は 185 cm と好成績でした。



図1 関西林木育種懇話会員と行っている共同試験

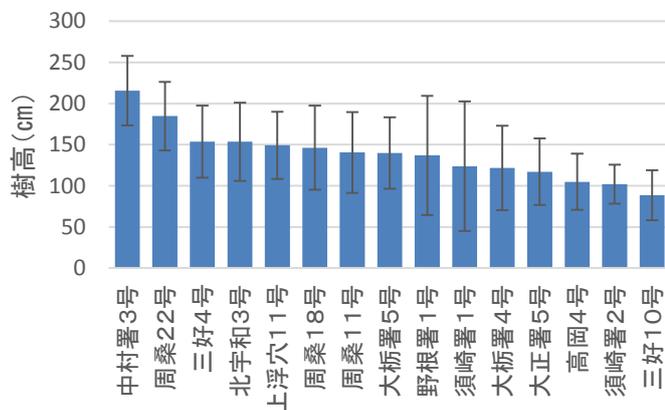


図2 初期成長の早いスギさし木試験地（愛媛県新居浜市）における4年次樹高

平成 25 年 3 月に山口県宇部市の田辺厚実氏の所有地に植栽したヒノキ精英樹のさし木クローンは、植栽当年から良好な成長を示しました。2 年次の最大個体は在来品種の神光 2 号で 210 cm でした（図 3 左）。精英樹の中では大正署 2 号（図 3 中央）が 182 cm で最大でした。その他にも松江署 1 号（図 3 右）等、良好な成長と樹形を示すクローンが複数見られました。各クローンの 2 年次樹高の平均値と、植栽時の樹高に対する成長率を図 4 に示しました。最も成績が良かったのは在来品種の神光 2 号で、精英樹クローンはこれに及びませんでした。

しかし、2番目の大正署2号は成長が良い上に少花粉品種であることから、きわめて実用的なクローンと考えられます。その他のクローンについても神光2号には及ばないものの、さし木品種として十分活用できる発根率と樹形、成長量を示しているものが多数ありました。同様の試験地を他の地域にも造成しているので、地域を選ばない、あるいは地域に適したさし木品種の開発という観点で今後も調査を続けていきたいと考えています。



図3 良好な成長を示したクローン. 左から、神光2号(在来品種)、大正署2号(少花粉品種)、松江署1号

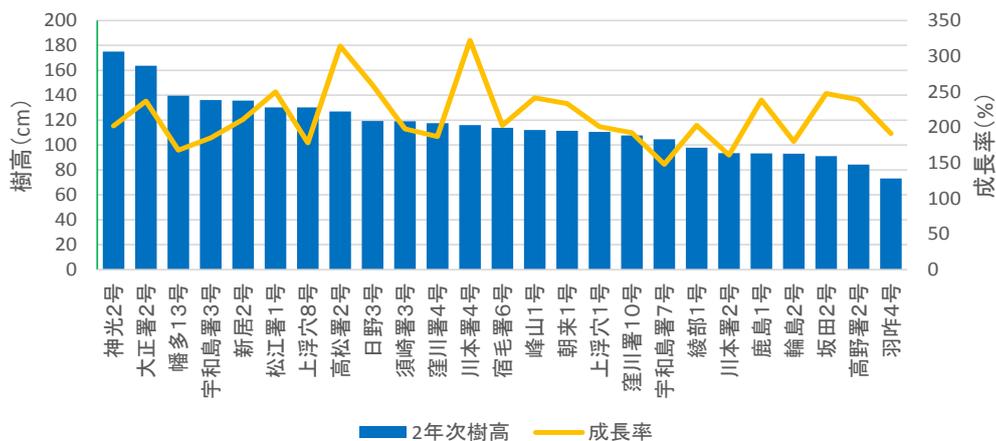


図4 ヒノキ精英樹さし木クローン植栽試験地(山口県宇部市)における2年次の樹高および成長率(2年次樹高/植栽時樹高)

最後に、共同試験はまだ始めたばかりですが、成長特性をしっかりと調査して、ユーザーの皆様に喜ばれる品種開発を行なっていきたいと思ひます。

### 第33回 関西林木育種懇話会総会及び情報提供、現地視察の開催について

- ・開催予定日 平成27年5月27日(水)～28日(木)
- ・開催場所 鳥取県鳥取市(会場未定)
- ・現地視察 赤堀林産、藤原苗圃

#### <事務局からのお願い>

定期総会及び情報提供、現地視察を上記日程により予定していますので、皆様の御参加と当誌への投稿もあわせてお願い致します。

また、会費納入がまだの方は、お忘れなく手続き願ひます。

関西の林木育種 第75号 2015.03

〒709-4335

岡山県勝田郡勝央町植月中 1043

独立行政法人森林総合研究所

林木育種センター関西育種場内

関西林木育種懇話会 編集・発行

TEL0868-38-5138 FAX0868-38-5139